

モデル事業名	交流促進による地域活性化モデル事業
活動団体名	おちちよう にじいろ さとよこばたけ 越知町 虹色の里 横 畠
ホームページ	http://yokobatake.jp
所属/ 担当者名	担当者氏名 (お問合せ先) 武智 龍
連絡先	電話番号、090-9772-3969 Eメールアドレス ryu_takechi@jp.bigplanet.com
活動地域	こうちけん たかおかくん おちちよう よこばたけ 高知県 高岡郡 越知町 横 畠 (横畠西部地区)

● 活動の内容(直近1年間の活動状況など)

(全体) 虹色の里横畠は、23年度も21年3月に本事業によって作成した第2次虹色プランに掲げた(1)農山村に磨きをかける、(2)学校を活かす、(3)人と人とのつながりを大切にするという3つの柱に沿って活動している。

(1) 関連の活動として、①横畠の地域資源を活かした体験型観光の一環として、ソバの収穫(12月)とソバ打ち体験(2月予定)イベントを実施した。



ソバの脱穀作業をする高知県立大学の学生

②地域内環境の整備の一環として小規模水力発電構想を上げていたが、本町ではただ一か所県の調査対象となり、23年秋に専門チームによる調査が行われ実現に向けて一歩前進した。

(2) 関連の活動としては、住民説明会などを経て休校中の横畠小学校を宿泊のできる交流施設にしようとして計画していたが、後になって一部住民から計画を見直すよう要請があり現在中断しているが、健康セミナー(11月)や各種イベント(5.8.10.12月)会場として活用している。



摘んだ茶葉の選別をする参加者

(3) 関連の活動としては、①重労働や家の修理などが困難な高齢者などを手助けするために結成した「横畠なんでもお助け隊」が、地区の特産物である「ひがしやま」の乾燥施設の建築(1件)や生姜の収穫の手伝い(2件)、庭木や家屋の保護林の剪定(1件)などの要請に応えた。

②情報の充実を図るため、地区内8集落に木製の情報掲示板(横1.8m*縦1.2m*高さ2.2m)を設置し、イベントなどの各種ポスターやチラシの掲示に活用されている。

③大学との交流として、関西学院大学のゼミ(9人、1泊2日)を受け入れ、地域の暮らしや産業などの実態や課題の研修、高齢者を招いてのソバ打ち体験交流会(23年3月)などを行った。



地区民運動会でフラダンスを指導する緑のふるさと協力隊員

高知県立大学からは、いも煮会(10月)とソバの収穫体験(12月)に各4名ずつ参加があり、中山間地域の生活の実態や本会の活動状況などを知り、今後も参加・協力したいとの感想を聞くことができた。

④空家の活用と地区外の若者の力を地域づくりに活かすため、本会から町に受け入れを要請していた「緑のふるさと協力隊」(女性1人)が、23年4月から1年間横畠の空き家で住むことになり、地域全体が活性化してきた。

⑤交流人口を増やすことで地域の景観や文化の保全、地域経済の活性化に貢献するため、地域の遊休農地を活用した「茶摘み体験」(5月)やロケーションを活かした「キャンドルナイト」(8月)、脱藩の志士やジョン万次郎など歴史的な人物とゆかりのある「旧松山街道」を歩くウォーキング(9月)などの体験型観光イベントを継続して開催し、延べ400人以上を受け入れた。



竹林の中でオカリナ演奏(キャンドルナイト)

⑥活動のマンネリ化を防止し地域を良くしようというこうした活動の協力者を増やすため年初に「新春夢を語る会」(1月)を開催したが、Uターンした若者やUIターンを考えている若者が参加し、本事業による取り組みの成果が具体的に現れ始めたことと確信している。

⑦9月に行われた高知県主催の地域づくり交流会の事例紹介(2例)に本会が選ばれ、活動報告を行った。

● 今後の課題及び展望 ・ (今後の活動及び活動を通して発見された課題等を記入)

・活動を通して発見された課題

- (1) 「第2次虹色プラン」に上げている「横島小学校活用計画」の見直しに当たって、基本的な考え方に大差はないと思われるが、今後虹色の里横島がどの程度かかわっていくかが現在は未定であること。
- (2) 同プランに盛り込んでいる方向性や取り組みの内容を含め、今後の地域づくりの課題やあり方を地域住民と共有していくこと。
- (3) 本会や地域の活性化のために、よそ者の果たす役割が重要であり、地域外からの協力者が参加しやすい仕組みや雰囲気作りに工夫が求められる。

今後の展望

- (1) 同プランに盛り込んでいる「横島西部自治公民館」の結成は、現状の行政区では高齢化や人口減などで維持できなくなりつつあるため改革していく必要があり、合わせて検討していくことが重要になると思われる。
- (2) 最大の課題は、今後も進む高齢化と人口減少。これを食い止めるために必要と考えられることは、大小問わずタイミングを失わずにチャレンジし続けること。